



Special issue

\\ 将来世代の負担軽減に向けて //

学校教育、広報を通じた医療保険制度の周知・啓発も重要

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。本年も健保連・健保組合は、皆さんの健康の維持増進と将来も安心して医療が受けられるよう、医療保険制度改革の実現に向けた活動に取り組んでまいります。

まもなく迎える成人の日には、社会人として新しい門出を迎える若者の姿が各地で見られることでしょう。就学や就職と進む道はさまざまですが、将来、社会保障制度の担い手の中心となるこの世代に、国民皆保険制度を引き継いでいくことも私たちの役割の1つです。

厚生労働省は昨年の厚労白書で、「次世代の主役となる若者の皆さんへー変化する社会における社会保障・労働施策の役割を知るー」をテーマに掲げ、高校生や大学生、社会人になる若者に向け、制度の役割や意義を示し、「自分事として考えてほしい」と呼びかけました。

白書は、人口減少・超高齢社会に直面する現状と全世代型社会保障の構築の必要性を説明。その上で、困り事相談や万が一の備えなど一人

ひとりの社会生活上の課題解決に役立つ、広く社会全体で支える仕組みの重要性を知ることにより良い社会づくりに主体的に関わることができるなど社会保障・労働施策の意義を強調しました。

また、高校生に向けたアンケートでは社会保障教育を受けたことがある人は65.3%にとどまる一方、教育経験がある人は制度の関心度や理解度が高い傾向がみられました。こうしたことから、社会保障と労働法教育の一層の連携を推進する方針を示しました。

健保連は、昨年9月に発表した『「ポスト2025」健康保険組合の提言』で、医療保険制度に関する「国民への周知・啓発」を国が実行すべき事項の1つに位置付けました。提言では、若いうちから医療に関するコスト意識を持ち、保険料と公費の負担構造などが理解できるよう学校教育や広報における周知・啓発を求めています。将来世代の負担軽減などに向けて、こうした取り組みも重要となってきます。

知っておきたい！ 健保のト

vol.80

上手な医療のかかり方

冬は夏と比べ、インフルエンザなどの感染症、ヒートショックや転倒事故などで医療機関を受診することが増える季節です。年末年始や休日、夜間に起こる突然の家族の不調に、救急車を呼ぶかどうか悩んだことがある方も多いのではないのでしょうか。

そのようなとき、迷ったら「#7119」に電話すると、医師・看護師などの専門家に相談ができることをご存じですか。経験を積んだ相談員が電話口で症状を聞き取り、緊急性があるかなどを判断し適切な対処の仕方や受診のタイミングをアドバイスしてくれます。

休日・夜間の急な発熱など子どもの症状への対処に迷ったときは、「#8000」で相談ができます。さらに、健康に関することを気軽に相談

できる「かかりつけ医」を持っておくと、いざというとき安心です。

時間外に当たる夜間・休日の受診は医療費の負担が割高になります。また、不要不急の受診が増加すると、一刻を争う救急患者の診療の妨げになるだけでなく、医療従事者の負担増にもつながるため厚生労働省は「上手な医療のかかり方」を推奨しています。

なお、「#8000」は全国で利用可、「#7119」は40地域（2025年10月現在）で実施され、利用エリアの拡大が進んでいます。

「上手な医療のかかり方」の情報は厚生労働省公式ウェブサイトでご覧いただけます

